

## 令和6年度北部公民館重点目標に対する評価

- (1) 今後も地域の団体などと連携・協力し、地域の資産を活かした特色ある公民館事業や地域の行事を共催で実施することで、地域住民の交流と豊かな地域づくりを目指していく。

評価：地域の団体との連携・協力としては、昨年引き続き文化祭を開催した。今年度は模擬店の出店に合わせ、福祉まつりを合同で実施したことで、子どもから高齢者まで幅広い年代の来館があり盛況であった。また、体育レクリエーション大会をアンデルセン公園で実施をすることで、特色のある事業と地域交流を図ることができた。

学校との連携事業としては、豊富小へ社会教育関係団体（ウクレレ）によるクラブ活動支援、豊富高校による読み聞かせ、中学生による行事ボランティアへの参加協力、特別支援学校の高齢者学級でのダンス部の公演を行い、いずれの事業も好評であり目標は概ね達成できた。

- (2) 行政機関や地区社会福祉協議会などと連携・協力をし、高齢者の健康寿命を延ばし健康で豊かな生活を過ごせるような事業を企画し、高齢者の社会参加と健康の維持・増進を図る。

評価：豊富寿大学、介護予防教室・ふなばしシルバーリハビリ体操（健康づくり課との共催事業）を実施、外出機会の提供、高齢者の仲間づくりや健康維持の増進を図ることで、フレイル予防に繋がることができ、目標は概ね達成できた。

- (3) 地域の方々が楽しんで参加してもらえるような魅力ある事業や地域の特色を活かした事業を企画し、地域の拠点として多様な学習機会を提供することで地域の活性化を図る。

評価：幅広い年代が楽しめる事業として、ボッチャ体験、北部公民館で人気のある菊づくり講習会、陶芸講座、歴史産物が多く残る地域であることから歴史散策、コンサートに触れる機会が少ない地区からクリスマスコンサート、とよとみジョイフルコンサートなど多方面に渡る事業を企画し開催することができた。また、令和6年度より、遺言状講座、生涯学習コーディネータとの共催による世界遺産の旅など、魅力ある事業も実施することで、地域の方々が楽しんで参加してもらえることができた。地域の資産を活かした公民館事業では、北部清掃工場での環境講座、アンデルセン公園でのカメラ講座、こどもエコ教室を実施した。

- (4) デジタルデバイス対策事業の拡充を目指す。

評価：地域の課題として、インターネットに関する学習を望む声が少ないことから、今年度も3回実施をした。基本操作に加え、近隣に商業施設が少ないことから、電子マネー・QR決済の体験を実施した。近年ではスマートフォンによる申請、買い物等々社会生活を送るうえで欠かせないものになることから、次年度以降も継続して実施をしたい。

- (5) 北部地区公民館の基幹館として地区館との連携を図り、広域事業の実施や施設管理などの支援に努める。

評価：北部地区7館の基幹館として、地区館の緊急性の高い修繕等を実施し施設管理に努めた。また、合同事業ではマンパワーが不足を解消することで、より魅力的な事業を実施し、多くの参加者を募ることができた。今後も基幹館として広域事業や施設管理など地区館と連携し業務を進めていきたい。

## 令和6年度二和公民館重点目標に対する評価

- (1) 社会教育関係団体を講師に招いた事業や団体間の交流の場を設ける等、日ごろの活動成果を発表する機会を充実させる事業を実施する。また、様々なライフステージに応じた事業を展開することで、サークル化につながるよう支援に努める。

評価：サークル活動の成果を発表する機会として、文化祭以外にサークルの体験や見学会といった「サークル活動支援事業」を実施した。また、社会教育関係団体である「二和そばの会」を講師に招き、成人と親子を対象としたそば打ち体験の実施や文化祭における模擬店への出店により、社会教育関係団体と地域住民との交流の機会を提供することができた。文化祭においては展示部門・発表部門共に集客が多く、地域交流とサークル活動への理解と関心を一層深めてもらうことができた。

- (2) 高齢者の引きこもりや孤立防止につながる事業を実施し、併せてデジタルデバイド対策や健康づくりにも重点を置き、高齢者を健康で豊かに暮らすための場を提供する。

評価：定着した「二和寿大学」のほか、高齢者の健康づくりに繋がる主催事業の「ふなばしシルバーリハビリ体操教室火曜コース」では、延べ703名と前年度より140名も多い参加があり、地域への広がりを実感できた。また、デジタルデバイド対策としてスマートフォンの基本操作からLINEの体験講座を実施。スマートフォンの便利さを知る機会を提供できた。

新規に北部保健センターとの共催により実施した「健康講座」では保健師による講話と健康運動指導士による心と身体のセルフケアの実技により高齢者のうつ病予防を学んだ。

- (3) 幅広い世代が参加できる事業を実施するとともに、地域のコミュニティの場として利用を促進し、気兼ねなく立ち寄れる公民館を目指す。また、二和地区自治会連合会と連携し、災害時における各家庭での備えや自治会等の備蓄品について確認できる機会を提供し、自宅避難や自主避難時の留意点を学べる事業を実施していく。

評価：青少年事業では好評を博した「夏休み子供工作教室」や「パン作り教室」のほか、新規事業の「親子で学ぶSDG-s13」では、海洋プラスチックごみについて考える「親子夏休み環境教室」を実施。親子で興味・関心を持って環境学習に取り組む場の提供ができた。

成人対象事業では、例年多数の申込みがある「ライフアップ講座」や「はじめての足裏リフレ」「郷土史講座」をはじめ、新規事業の「多文化料理教室」では、ベトナム料理と中国料理の調理を通じて各国の文化の理解を深める機会になった。

二和地区自治会連合会との共催事業では日常に起こりえる最近の消費者トラブルを学び、主催事業の防災講座では「災害への備えを楽しく学ぶ」を目的とした、防災運動会に親子そろって積極的に参加いただき、災害への心構えと非難への備えについて学ぶ機会を提供することができた。

- (4) 音響・照明等の機能を有する講堂を、文化・芸術活動推進のため積極的に活用し、主催事業の充実を図るとともに、各種団体によるコンサートや発表会等の利用を支援する。

評価：「二和劇場」ではボランティアの実行委員会との協働により計画通りに実施することができ、全5回計1,350人の集客があった。また、今年度より新規事業とし企画した「ふたわ名画座」では、社教教育課所蔵の教材を活用し、年6回の映画上映会を行った。

発表会等による利用団体への貸出については、徹底した事前打合せと演出への協力により円滑に実施することができた。

## 令和6年度海老が作公民館「重点目標」に対する評価

(1) 深刻な地域の高齢化に対応していくため、地域団体や地区社会福祉協議会と連携し、高齢者の生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりを目的とし学習や活動を推進する。

(2) 高齢者の希望に合ったデジタルデバインド対策講座を引き続き実施し、デジタルデバインドの解消を図る。

評価：重利から実施していた事業の形態は変えずに、内容を工夫することによって、リカレント教育、繋がりへの創出が行えたと考ええる。同時に、デジタルデバインド講座も引き続き実施し、対策とした。

(3) サークル活動が継続して行えるよう、サークル活動を支援するとともに、新たな会員獲得に向けたサークル支援事業を引続き実施していく。

評価：今年度は参加者自体は多くないが、1サークルに1名の加入があった。また、公民館でのサークル活動の周知としても有効であると感じた。

(4) 青少年育成団体や学校、児童ホーム等と協力しながら、青少年の活動の場を確保するとともに、創作活動や新たな仲間と遊ぶことの楽しさを体得できる取組を実施する。

評価：船橋市ハッピーサタデー事業を地域青少年関係団体で構成される、海老が作青少年事業実行委員会と開催し、多くの子供たちの参加があった。地域交流、世代間交流が図れたと考える。

(5) 市民協働による公民館活動を推進し、市民ニーズを取り入れ幅広い世代の市民に、多様な学習や芸術活動を提供する。

評価：地域住民で構成される。海老が作コンサート実行委員により企画されたコンサートを2回実施した。多くの参加者がったことから、地域住民の要求にあった内容の事業が行えたと考える。

## 令和6年度小室公民館重点目標に対する評価

- (1) 地域住民の様々なニーズを捉え、ライフステージに応じた多様で的確な学習機会の提供に努める。

評価：小室地区は新規住宅の建設は続いており、子育て世代は増加傾向にあるが、現役世代の公民館利用者が少ないのが現状である。幅広い世代がより多く公民館を利用していただくことを目標とし、多種多様な事業を実施した。土日にも実施したことから、現役世代や新たな公民館利用者の参加もあり、概ね目標は達成できた。

- (2) 青少年教育の充実を図るため、小室地区青少年健全育成連絡協議会や各種団体、学校等と連携し、青少年の体験学習等健全育成を図る。

評価：ハッピーサタデー事業では新しい事業も取り入れた。また「こどもまつり」は大幅に内容を変え、子供たちが楽しめるよう様々な工夫を凝らし、小室児童ホームをはじめ小室地区青少年健全育成連絡協議会、各種団体と連携したほか、中学生・高校生のボランティアの協力も得て実施した。生徒会委員へ直接話を聞き事業を企画したり、PTAや学校と連携しメーリングリストで事業を周知したこともあり、中学生、高校生の参加した事業もみられ、概ね目標は達成できた。

- (3) 増加傾向にある子育て世代が地域とふれあい、愛着がもてるように、併設している児童ホームと共に各種活動の機会を設ける。

評価：未就学児の親子に対しては、小室児童ホームと連携しクリスマス会のような季節行事やヨガ、セルフマッサージ体験の機会を設け子育て中の保護者同士の交流を図ることができた。小・中学生とその保護者に対しては、学校やPTAに周知等で協力を得ながら家庭教育セミナーを実施し、親子の交流の機会や子供の将来について考えていただけるような機会を提供することができた。

- (4) 高齢者が心身ともに健康で潤いのある生活を送れるよう、地区社会福祉協議会や各種団体と連携し、参加者同士の交流の場と健康増進を図る学習機会の提供に努める。また、高齢者デジタルデバイト対策事業を引き続き促進していく。

評価：「小室寿大学」のほか「Let's Enjoy バランスボール♪」、「生き生きと若々しく過ごすための教室」など多様な事業を実施することができた。健康増進を図る目的で実施した健康「吹き矢教室」はサークル結成に至った。また豊富地区社会福祉協議会と共催で料理サロンを実施し、料理を通して参加者同士の親睦を深めることもできた。デジタルデバイト対策事業のスマホ講座は、昨年同様、高齢者からのニーズが高く、情報機器を気軽に使用する機会を継続的に提供できた。

## 令和6年度八木が谷公民館重点目標に対する評価

- (1) 人口の減少、高齢化が進む地域であっても、地域交流の他、子供同士や世代間の交流が生まれるような機会を提供することにより、人との関わりの中で生活していることを知り、地域への愛着、地域貢献の意識を育む。また、青少年については、体験活動を充実させて、周囲との関わりを増やす。

評価：子供同士等の交流とした「ふなばしハッピーサタデー事業」では、ヒップホップダンスやボッチャなどの運動のほか、ポンポン蒸気船やミニライト工作、レアチーズケーキ作りやクリスマスパーティー、MYSK こどもまつりなど、様々な講座を行うことにより、子供たちは様々な体験をすることができた。

また「読書感想文教室」や「書き初め教室」では、講師の丁寧な指導により作品を完成させ、子供たちの満足度の高いものとなった。

「走るコツを学ぼう」では、参加者のうち小学1～2年生の子供たちが多かった。参加した子供たちは何通りかの走り方を行い、飽きることなく学ぶことができた。いずれの事業も好評であり、子供の交流や体験活動が行えたものとする。

- (2) 地域の高齢化率が高いことから、高齢期を豊かに生きるために、健康維持や増進のための学習機会の提供を推進する。

評価：知識と教養を深め、健康の増進に学ぶ「八木が谷寿大学」では、歴史講座や防犯講座、体操や笑いヨガ、落語、映画鑑賞など様々な内容の講座を実施し、満足度は高いものとなった。

また健康づくり・介護予防を目的とした「健康セミナー」においては、フレイル予防、認知症予防のほか、膝関節、耳の健康、健診結果の見方、転倒防止についてなどの講義を行い、この講座においても満足度は高いものとなった。

その他に、「介護予防事業」では、歌いながら行う体操により、参加者がとても楽しそうに行うことができ、「ふなばしシルバーリハビリ体操教室」では参加者が多く、満足度も高いことから、高齢者の健康維持や増進のための学習の提供が行えたものとする。

- (3) 八木が谷地区は交通機関が限られることや、買い物困難地域もあるなどから、ネットショッピングを含むデジタルデバイド対策を推進することにより、高齢者などの方が生活しやすいように学習の機会を提供する。

評価：デジタルデバイド対策事業として今からはじめる!スマートフォン体験講座(入門編)、「触っておぼえる!スマホの基本とLINE体験」や、「はじめてのオンライン体験 Zoom 入門編」を実施したことにより、スマホ等の活用を学ぶことにより生活がしやすい学習の機会を提供できたものとする。

(4)「家庭教育の認知」は約7割と高いが、「子供への家庭教育に自信がある」は約3割と高くない為、家庭への教育を推進する。

評価：家庭教育として行った「八木が谷公民館本館家庭教育セミナー」では、子供に対する食育や整理収納、ハンドマッサージ等を行い、参加者が少ないものの満足度は高いものであった。学校と共催した「就学時健診等における子育て学習」では、新入学の保護者に対して、子供との日頃の接し方を改めて考えさせる内容の講義で、改めて自分の行動を振り返る良い機会になったのではないかと思う。いずれの事業も家庭教育を推進できたと考える。

(5) 学習に期待することは、心身の健康を維持・増進することを重視していることや、何かを継続して学ぶことが生活の充実につながると考えられることから、健康関連はもちろん趣味の幅が広がるような事業を実施していくと伴に地域交流にもつなげていく。

評価：「秋の八木が谷&大神保の古道を歩く」では、八木が谷公民館を經由した散策ルートで、神社等の史跡の説明もあり、地元を見直す良い機会となった。「庭木の手入れ入門講座」では、庭木の特徴に応じた剪定の知識や技術を学び、自宅等でも即実践できる実用性のある講座であった。「中国文化紹介講座」では、中国と日本の習慣の違いなど中国文化について学ぶことができ、いずれの事業も好評であり参加者の趣味の幅が広がる事業が実施できたと考える。

(6) サークルの高齢化を防ぐため、新たな会員が入会できるような事業を行い、サークルの活性化を図る。

評価：会員増員や新たな趣味を見つける手助けをするため「八木が谷公民館サークル見学・体験会」を、社会教育関係団体の協力で行った。参加者は少ないものの、全体で7名の新規入会者もあり、サークル活性化及び新たな趣味の発見に役立てることが出来たと考える。

## 令和6年度三咲公民館重点目標に対する評価

(1) 地域の高齢者の運動機能の向上・健康寿命の延伸、生きがいづくりに寄与する事業を実施し、高齢者が心豊かにすごせる場を提供する。

評価：運動機能向上・健康寿命の延伸のため、「ふなばしシルバーリハビリ体操教室」は2講座開設した。気軽に参加できる運動の場として好評であり、2講座開設が利用者に定着してきた。「三咲寿大学」は運営委員と協力して実施し、年代に沿った学習や憩いの場として機能した。また、高齢期に必要な知識を身に付けることで安心した生活を送れる一助となるよう「終活セミナー」を実施した。

(2) 高齢者の参加しやすい各種の事業を実施し、地域で閉じこもり傾向にある高齢者の参加を促すとともに交流の場を提供する。

評価：「認知症予防教室」を実施し、地域での閉じこもり傾向にある高齢者の参加を促し、かつ介護予防の基本的知識等を普及啓発することで認知症予防に努めた。高齢者を対象とした「デジタルデバイド対策講座」を実施し、スマートフォンを初めて手にする高齢者でも、安全に使用方法を学ぶ機会を提供した。

(3) 社会教育関係団体及び地域の町会・自治会等の組織や地域の団体の活動の支援を行い、社会教育関係団体の育成に努める。

評価：「サークル活動自由見学ウィーク」を実施し、生涯学習に興味がある方とサークルを繋いだ。また昨年度は、当公民館から新たに4団体が社会教育関係団体に承認され、3団体が主催事業から団体発足に結び付いたことから、今後も支援に努めていきたい。

(4) 現代的課題や地域の課題に取り組む事業、住民の学習ニーズに対応する事業、20代から50代の若い世代が興味を抱く講座等を実施し、成人向け事業の充実を図る。

評価：地域住民と地域の歴史等を学ぶ講座を通じて郷土愛を深める「地域史講座」、地域で活動する方に講師を依頼し水引細工を通じて参加者同士の交流を図る「水引細工教室」、料理の基礎を学びつつ参加者同士の交流を深める「おうちクリスマスを楽しむお料理教室」を実施し、成人向け事業の充実を図った。

(5) 併設している児童ホームと連携・協力して、子育て支援事業を実施し、地域の子育て世代が交流できる場を提供する。

評価：「本館家庭教育セミナー」や「英語であそぼう」「ベビーマッサージ」を三咲児童ホームと共催で実施し、子育て世代が交流できる場を提供した。

(6) 近隣地域の学校・児童ホーム・地域団体と協力して、青少年が体験・学習できる事業を実施し、青少年の健全育成や居場所づくりに寄与する。

評価：ふなばしハッピーサタデーでは「親子でシナモンロール作り教室」「折り紙ヒコーキ教室」「みんなでモルック体験」等、地域の団体等に講師を依頼し、様々な体験・学習ができる事業を実施した。夏休みには「こども応援プロジェクト」として「読書感想文

教室」「こども環境科学教室」「片手で工作!!カップケーキ小物入れ作り教室」を実施した。

(7)今後、大きな災害が起こることを想定して、地域住民を対象に災害対策に関する事業を実施し、地域住民の防災意識を高め、防災の知識と対策を共有する。

評価：防災講座「台風に備える」を実施し、近年各地に甚大な被害をもたらしている台風について、日頃の備えや災害時の行動、これに加えて不幸にも被災した場合の具体的な対応等を学んだ。

## 令和6年度松が丘公民館重点目標に対する評価

- (1) 青少年育成団体、学校、児童ホーム等と連携し、青少年の体験活動や主体性を伸ばしていく事業を実施する。また社会教育関係団体や地域住民との協力により、子供同士や地域の大人との交流を図る場や機会を提供できる事業を実施する。

評価：子供たちの学校外活動として、世代間交流や地域との関わりを創出する取り組みを推進した。青少年の体験活動の中では「福祉まつり」での中学生ボランティアを、「書き初め講座」では高校生の講師ボランティアなど、日常では経験できないコミュニケーションを通じて、地域社会への関心と責任感を醸成することにつながったと考える。

- (2) 家庭教育に関する事業を実施して子育て世代を支援する。

評価：「家庭教育セミナー」では、子供たちの成長に欠かせない「食」をテーマに、家庭での食生活と料理を通したコミュニケーションを学ぶ機会を提供した。持続可能な生活習慣の形成については、季節に応じた地元食材を積極的に選び工夫して使い切るなど、家庭での食品ロス削減につながる取り組みを学ぶことができた。環境、健康、栄養等の側面から家族間コミュニケーションといった多方面に渡る指導内容は、前向きな印象がもてる実践的なアプローチとなっていた。

- (3) 地域のあらゆる人が、スポーツや文化活動に参加するきっかけをつかめるような魅力ある事業を計画する。また、持続可能な開発目標(SDGs)を意識した事業により地域での支援活動や環境保全に関心を持つ機会を提供するとともに、各年代にあった広報の方法を検討する。

評価：幅広い世代が公民館活動を通じて身体を動かし、文化に触れられる機会を創出した。

「健康ウォーキング講座 木戸川健康ウォーク」では、松が丘地区スポーツ推進委員を講師に迎え、共催で実施した。川沿いの桜を散策しながら、身近な文化財、史跡のレクチャーを通して地元の歴史を知る機会となった。また、SDGsを意識した事業においては、「環境マーク博士になっちゃおう」「りさ育る 携帯電話の分解体験」などのハッピーサタデー事業の中で、子供たちの「遊び」や「実験」などを通した実践的な学び、環境意識の面でプラスの効果をもたらすことが評価できた。

- (4) コンピュータ、インターネット、スマホなど、様々なITに関する情報格差をなくしていくために、高齢者だけでなく様々な年代に対応したデジタルデバインド対策関連の講座を実施する。またオンライン講座など、新しい生活様式に対応できる方策を検討していく。

評価：スマホに関連する講座では、当館の受講者は全員が後期高齢者の中、複数名のサポート体制で実施した。各講座での受講者の満足度は大変高いが、日常生活でスマホを使い慣れる場面が少ないこともあり習得が難しいところである。このような趣旨の講座を公民館で継続して開催していくことは、情報格差の解消はもちろん、高齢者が必要な情報や支援をタイムリーに受け、発信するなど、生活の質の向上に繋がるもの考える。

- (5) 高齢者が自分らしくそれぞれの生きがいを持ち、住み慣れた地域で健やかに暮らし続けられるよう高齢者事業の充実を図り、高齢者の孤立や閉じこもり防止に寄与する。

評価：「松が丘寿大学」においては、定員 100 名、平均年齢約 80 歳の受講者が年間を通じて、健康管理や防災意識など教養を高める様々な企画内容に取り組んだ。いくつになっても新しいことに挑戦し、学び続ける経験は、日々の生活に目的ややりがいを持つことに繋がるものとする。また、同講座は、地域の多くの同年代が集う場所でもあるので、参加者同士の交流の機会を増やせるよう運営に工夫をし、地域内での友人作り、コミュニティの活性化に繋げていきたい。

- (6) 地域における防災学習の充実や非常時の一人ひとりの心構えについて学習する機会を提供するとともに、館内職員は実践的な避難所訓練を実施し有事に備える。

評価：防災学習の講座には、講師以外にも複数名サポートいただき、フィルム貼りなどの実体験を段取り良く実施することができた。日常の備えについての疑問にも丁寧に開設していただき、受講者の満足度は高かった。また、公民館での実践的な避難訓練の実施については、館職員と非常参集職員全員が参加し、有事を想定した避難誘導や防災倉庫などを共有した。現状や課題、改善点などを意見交換できたことは大変意義深く、実際の災害時における混乱を最小限に抑えることにも繋がるものとする。今後も同様の訓練を継続して実施し、有事に備えていきたい。

- (7) 地域で周知されている生涯学習施設として地域の核となるよう情報収集し、様々な方法で発信していくとともに、サークル活動の支援・育成に努める。また、施設・設備の点検整備を心がけ、利用者が安心して利用できる居心地のよい施設を目指す。

評価：サークル活動の支援・育成においては、公民館事業での発表の場の提供から日常利用のサポートまで、館の職員がきめ細かく対応しており、サークルの利用者とも良好な関係が築けている。また、施設や設備の点検整備については、開館から 30 年以上が経過し、館内で備品の不良個所が各所生じている。不具合を確認したら速やかに教えていただくよう利用者にも呼び掛けるとともに、職員全体では日頃の情報共有をこまめに図るなど、安全・安心を第一に施設運営に努めた。

## 令和6年度坪井公民館重点目標に対する評価

- (1) 地域住民の防災意識が高いことから、ニーズに合致した防災学習の場を提供するため、地域の防災について主催者（公民館）と参加者（住民）が一緒に考えた体験・実践型の事業を実施する。

評価：坪井地区自治連合会の協力のもと、学習テーマを選定し、地域防災講座を実施した。

避難所を開設するにあたって、様々な課題に対応するための具体的なスキルを習得できる効果的な講座だったと認識している。坪井地域は自治会・町会の防災担当者を中心に、防災意識への関心が高く、日頃から災害時の備え等について準備を進めていることから、今後についても、各町会・自治会の皆様と意見交換を行い、ニーズに沿った講座を実施していきたいと考えている。

- (2) 地域の各種団体・機関と連携して子供たちに体験活動や学習の場を提供し、青少年の健全育成・居場所づくりに取り組む。

評価：坪井地区社会福祉協議会、坪井地区スポーツ推進委員会、船橋市スポーツと健康を推進する会などの団体の支援をいただき、地域の大人たちが温かく寄り添うことで、子どもたちが参加しやすい事業の実施ができたと感じている。また、大学施設が近いというロケーションを活かして、大学の先生方のご協力をいただいた体験型の事業を実施できたことも効果的であったと感じている。

- (3) 様々な世代や環境の方々のニーズを的確に捉え、また、福祉や国際社会との繋がり等を視野にいれながら魅力ある事業を展開し、地域の方が積極的に学習・文化・スポーツ活動に携われる場を提供する。

評価：様々な世代や環境の方に向けた多面的な事業が実施できたと考えている。また、「有償ボランティア入門講座」や「異文化コミュニケーション講座」など、福祉や国際社会を視野に入れた事業を実施できたことも効果的だったと感じている。次年度についても地域の様々な方々が進んで参加してくれるような、魅力ある事業を実施していきたい。

- (4) 高齢者が家に引きこもらないよう、高齢者向け事業を定期的に行い、生きがづくり・仲間づくりを支援する。また、高齢者が運動機能を維持するためのきっかけとなる事業を行う。

評価：「坪井みのり学級」「介護予防教室」「シルバーリハビリ体操」などの事業を実施した。

運動機能の低下や、孤立化が進まないための一助となったのではないかと考えている。超高齢者社会の現在、高齢者の身体機能を維持しながら、生きがづくりや仲間づくりが行えるように、次年度についても、様々な趣向をこらした事業を実施し、高齢者の生活を援護していきたい。

- (5) 子育て世代を支援し、また、親子の絆を深めるために、親子で一緒に参加できる事業等の充実を図る。

評価：子育て世代を中心とした地域の一般成人を対象に様々な学習機会を提供するとともに、親子で学ぶことで絆を深め生活を豊かにすることを目的として、「親子でいっしょに体験講座」を実施したほか、児童ホームとの共催による乳幼児親子に寄り添う講座にも力を入れた。坪井地域の人口構成で一番多い世代が公民館に興味を持ってもらえるよう、次年度においても新たな取り組みに挑戦してみたいと考えている。